

平成22年度商工施策について要望

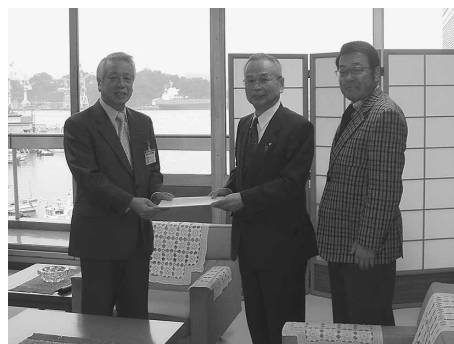
当所では、10部会からの意見要望と常議員会・部会長合同会議での議論をベースにした「平成22年度商工施策についての要望」を7項目に取りまとめ、舞鶴市並びに京都府に対し要望活動を行った。

舞鶴市への要望

12月21日、上西会頭、櫻木副会頭、瀬川専務理事が、舞鶴市役所に齋藤市長を訪ね、要望書を手渡した。

【要望書の内容】

- ① 民需を創出する「呼び水」として、必要かつ急ぐべき社会資本整備への財政出動
- ② 公共事業の地元への優先発注
- ③ 物品・役務の供給における地元企業への優先発注
- ④ 道路網の整備促進
- ⑤ 京都舞鶴港の利用促進
- ⑥ 商店街・小売商業の振興
- ⑦ 「広域周遊観光圏」の構築による府北部の活性化



厳しい景気動向、緊急対策の必要性について、共通の認識があることを承知のうえで、改めてのお願いである。地域の雇用を支える中小企業は、自助努力をはるかに超えた厳しい状況に追い込まれ、地域経済は疲弊の度を増している。公共工事は「すべて悪」との考えを捨て、不況で、人手・物が余り、金融も緩んでいる今こそ、コストや波及効果を十分精査し着実に進めるべきであり、必要かつ急ぐべき社会資本の整備は、「前倒し」をしてでも実行すべき旨お願いした。

齋藤市長からは、「経済状況の認識は同じである。景気対策については、具体案を出すよう指示しており、目に見える形で昨年よりも前進した結果を出したい。また、経済界からも、地元業者が対応でき、まちづくりに役立つ事業の提案をして欲しい」旨の発言があった。

京都府への要望

12月22日、瀬川専務理事が京都府中丹広域振興局に竹内局長を訪ね、山田知事と局長あての市と同趣旨の要望書を手渡し、その趣旨を説明した。

竹内局長からは、「打って出る先が見えないのが現状で、一部回復が見られるものの、状況は昨年より一層深刻である。『オール京都』の体制で、景気浮揚に全力で努めたい。公募型公共工事は少しでも増やしたい。京都縦貫道も何とかしたい。これが知事の思いだ」旨の発言があった。

今回の要望活動については、京都府・舞鶴市のいずれの要望先に対しても、「とにかく、仕事が欲しい。地元優先発注の公共事業が必要である。民需を創出する『呼び水』として、必要とされる公共事業への財政出動をすることにより、早期に『自律的な景気回復』を実現していただきたい」旨を強調した要望を行った。